

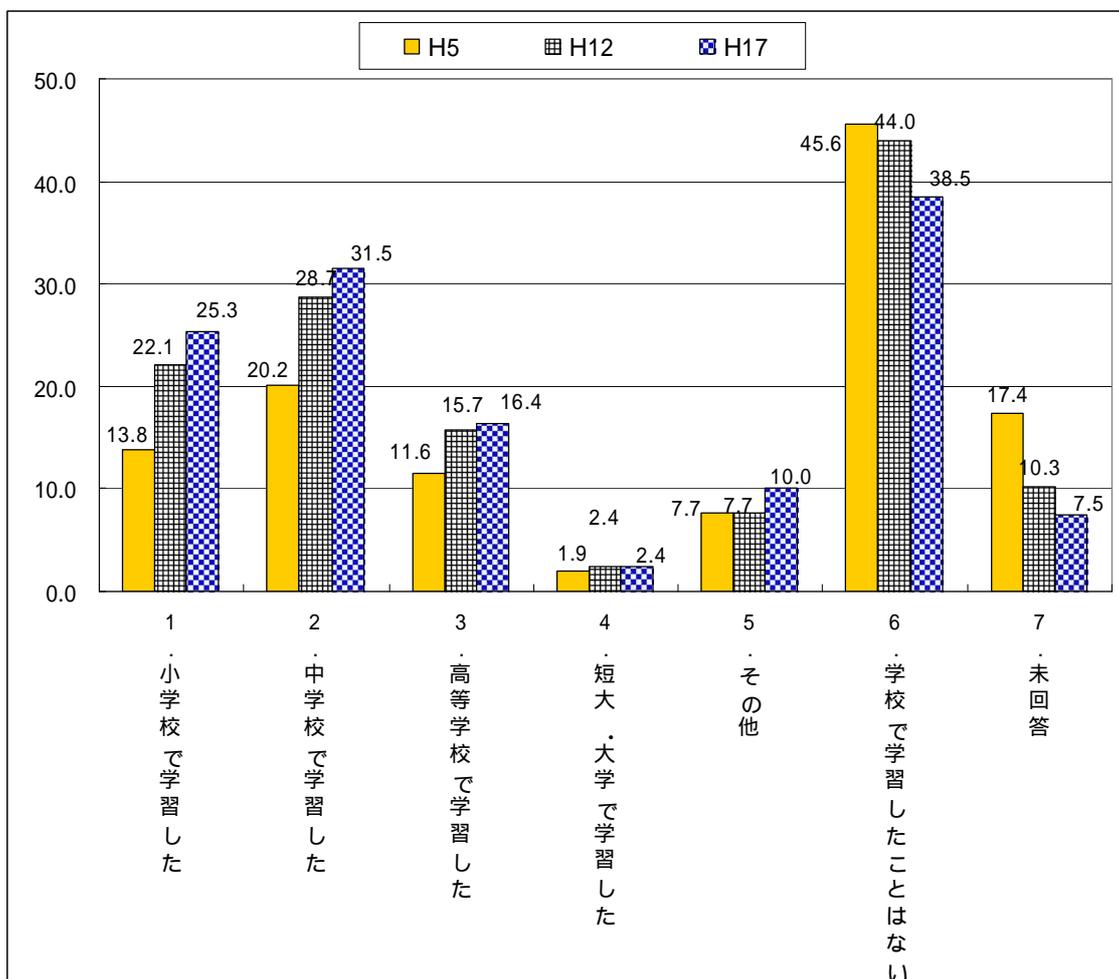
## 5 同和問題に関する学習についての意見

### ア 同和問題についての学習状況

質問 10 あなたは、学校教育の中で同和問題について学習したのはいつですか。あてはまるものすべてに をつけてください。

学校教育における「同和問題」についての学習経験を聞いた。(複数回答)

図 84: 同和問題についての学習状況 (%)

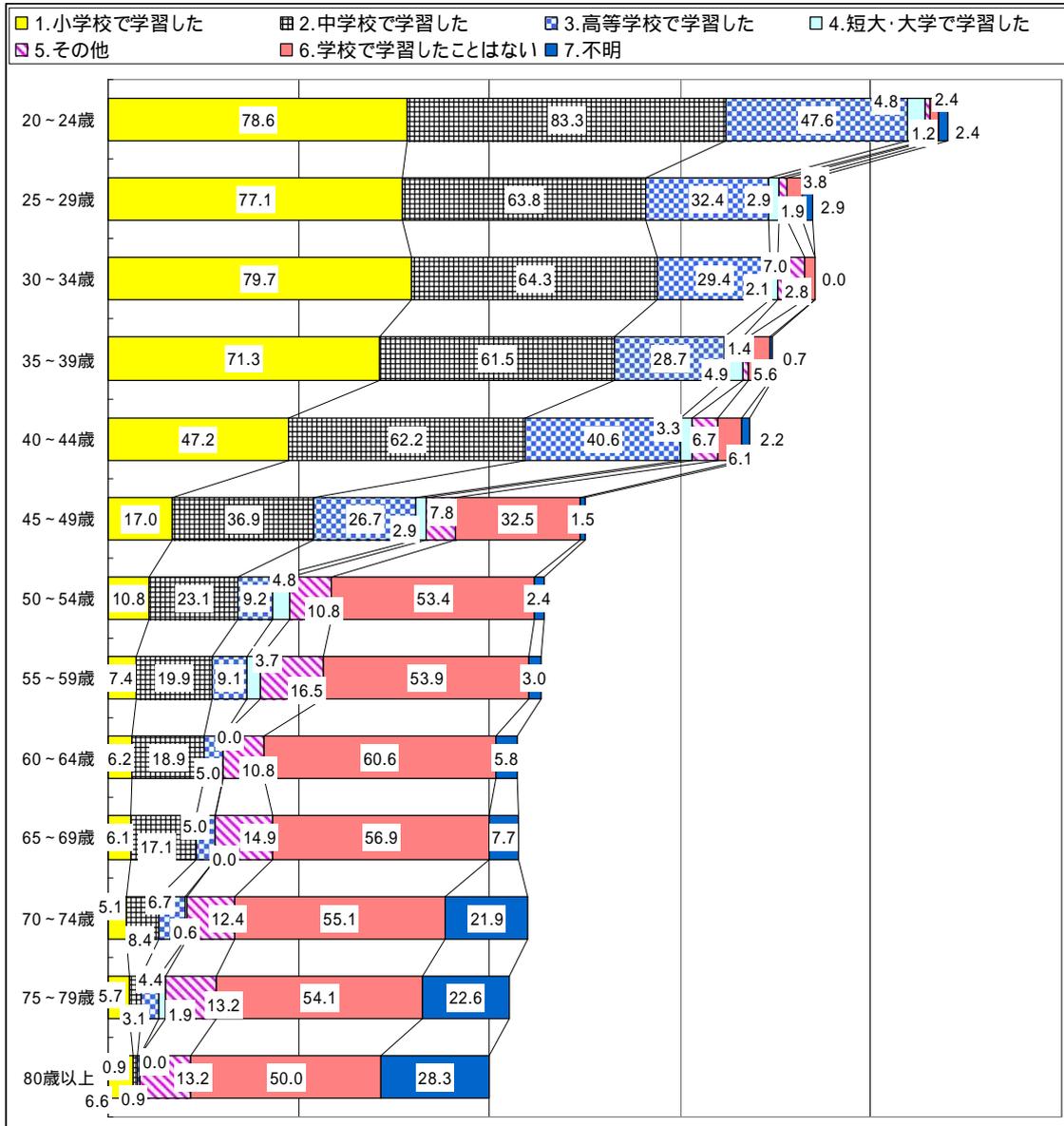


“学校で学習したことはない”とする回答が 38.5%と最も高くなっている。

前回調査と比較すると“小学校で学習した”が 25.3%で 3.2 ポイント増加、“中学校で学習した”が 31.5%で 2.8 ポイント増加、“高等学校で学習した”が 16.4%で 0.7 ポイント増加となっている。

一方、「学校で学習したことはない」は 38.5%で 5.5 ポイント減少している。

図 85: 年齢階層別、同和問題についての学習状況 (%)



年齢階層別にみると、昭和 50 年代の始めに、小・中・高校の全ての学校で同和教育が行われ始めたことを反映し、「学習したことはない」とする回答は「20~44 歳」ではわずかしきみられないが、「45 歳以上」で急激にその割合は増加し、「50 歳以上」では 5 割を超えている。

また、学習したことがあるとする回答が高い「20~44 歳」をみると、「小学校で学習した」とする回答は、「39 歳以下」で約 7 割を超えているが、「45~49 歳」で 17.0%と年齢階層が上がるにつれて低くなっている。

「中学校で学習した」とする回答は、「44 歳以下」で約 6~8 割、「45~49 歳」36.9%、「50~54 歳」23.1%と次第に低くなっている。

「高等学校で学習した」とする回答は、「50 歳以上」で大きく減少している。

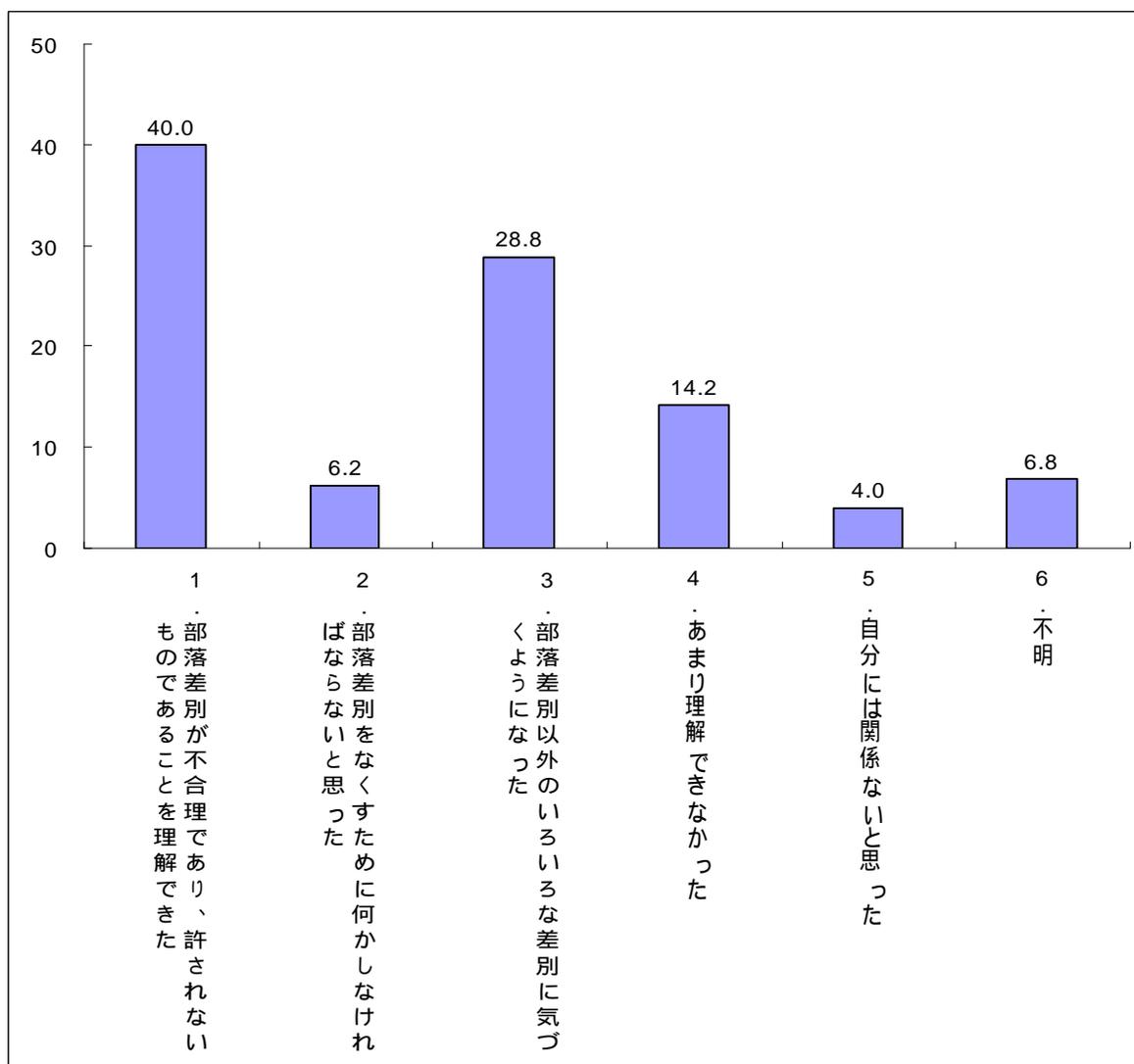
## イ 同和問題学習についての感想

質問 10-1 「同和問題」について学習して、どのような感想を持ちましたか。一番あてはまるものをつけてください。

質問 10 において、回答項目 1～4 を選択した回答者(1,083 人)に、「同和問題についての学習」についての感想を聞いた。

なお、前回調査では「あてはまるものすべてに」としていた設問を、今回調査では「一番あてはまるものに」と変更している。

図 86: 同和問題学習についての感想 (%)



“部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた”とする回答が 40.0%と最も高く、次いで“部落差別以外のいろいろな差別に気づくようになった”28.8%、“あまり理解できなかった”とする回答 14.2%の順となっている。

また、“部落差別をなくすために何かしなければならなかったと思った”とする積極的な回答は 6.2%と低い割合にとどまっている。

図 87: 年齢階層別、同和問題学習についての感想 (%)

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
1.20～24歳	部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた 48.8	部落差別以外の色々な差別に気づくようになった 18.8	あまり理解できなかった 16.3	不明 7.5	自分には関係ないと思った 6.3
2.25～29歳	" 49.0	" 29.6	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 8.2	あまり理解できなかった 8.2	不明 3.1
3.30～34歳	" 50.0	" 23.9	あまり理解できなかった 11.2	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 7.5	" 6.0
4.35～39歳	" 44.0	" 24.6	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 8.2	あまり理解できなかった 8.2	自分には関係ないと思った 7.5
5.40～44歳	" 46.2	" 24.7	あまり理解できなかった 12.0	不明 9.5	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 4.4
6.45～49歳	" 38.7	" 27.4	" 21.0	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 5.6	不明 4.8
7.50～54歳	部落差別以外の色々な差別に気づくようになった 39.3	部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた 30.3	" 14.6	不明 7.9	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 6.7
8.55～59歳	" 34.8	" 25.8	" 18.0	" 9.0	" 6.7
9.60～64歳	" 41.3	あまり理解できなかった 27.0	部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた 22.2	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 4.8	自分には関係ないと思った 4.8
10.65～69歳	" 33.3	部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた 28.6	あまり理解できなかった 19.0	不明 9.5	" 7.1
11.70～74歳	部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた 42.9	部落差別以外の色々な差別に気づくようになった 28.6	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 10.7	" 10.7	あまり理解できなかった 7.1
12.75～79歳	" 30.0	" 30.0	あまり理解できなかった 15.0	部落差別をなくするために何かしなければならぬと思った 10.0	不明 10.0
13.80以上歳	部落差別以外の色々な差別に気づくようになった 33.3	部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた 22.2	自分には関係ないと思った 22.2	" 11.1	あまり理解できなかった 11.1

年齢階層別にみると、「20～44歳」では「部落差別が不合理であり、許されないものであることを理解できた」とする回答が4割以上と高くなっているが、「部落差別をなくするために何かしなければならぬ」とする回答は「69歳以下」のすべての年齢階層で1割未満となっている。

また、「50歳以上」では、「部落差別以外のいろいろな差別に気づくようになった」とする回答が高くなっている。

## ウ 同和問題学習についての考え方

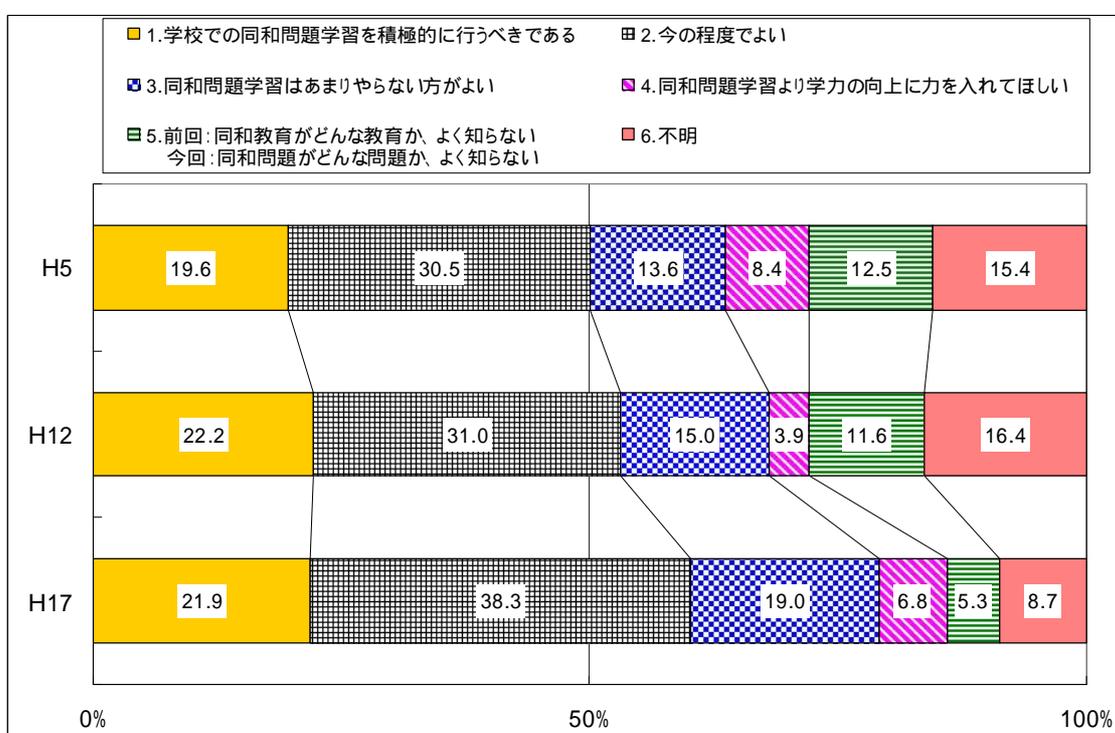
質問 11 小・中・高校で扱われる同和問題について、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるもの一つに をつけてください。

小・中・高校において同和問題を扱うことについての考え方を聞いた。

なお、平成 12 年調査と平成 17 年調査の選択肢 4 の表現「学力」は、平成 5 年調査では「一般教養」であった。

また、今回の調査では、平成 12 年調査の選択肢の表現「同和教育」を「同和問題学習」に、選択肢 5 の表現「同和教育がどんな教育か、よく知らない」を「同和問題がどんな問題か、よく知らない」に変更している。

図 88: 同和問題学習についての考え方 (%)

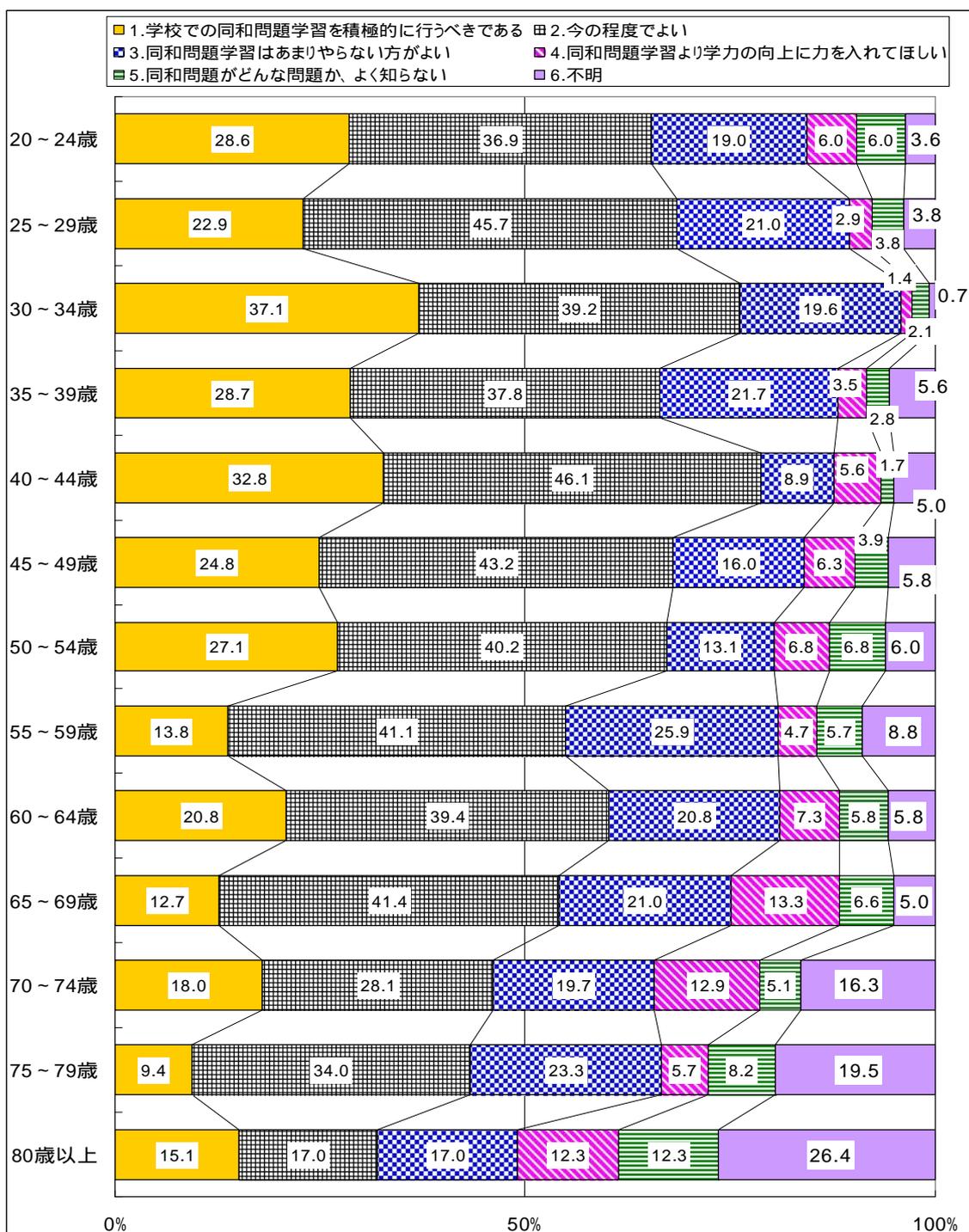


“今の程度でよい”とする回答が 38.3%と最も高く、次いで“学校での同和問題学習を積極的に行うべき”21.9%となっており、同和問題についての学習に肯定的な回答(選択肢 1、2)が合わせて 60.2%となっている。

逆に、“同和問題学習はあまりやらない方がよい”19.0%、“同和問題学習より学力の向上に力を入れるべき”6.8%となっており、同和問題についての学習に否定的な回答(選択肢 3、4)は合わせて 25.8%となっている。

前回調査と比べると、“学校での同和問題学習を積極的に行うべきである”とする回答は 22.2%から 21.9%と 0.3ポイント減少しているのに対し、“今の程度でよい”とする回答は 31.0%から 38.3%と 6.7ポイント増加、“同和問題学習はあまりやらない方がよい”は 15.0%から 19.0%と 4.0ポイントの増加となっている。

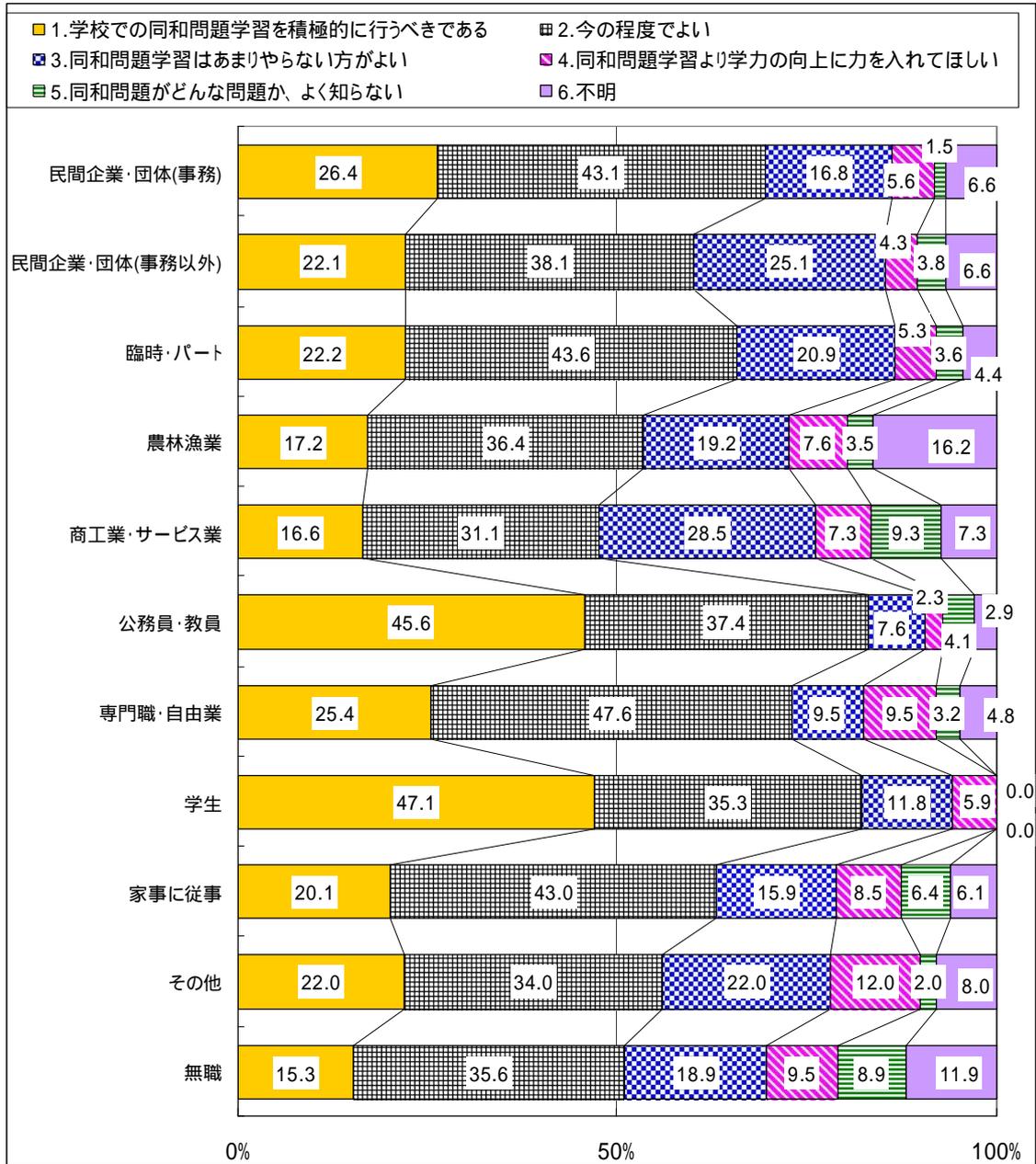
図 89: 年齢階層別、同和問題学習についての考え方 (%)



年齢階層別にみると、「20～54歳」では、同和問題学習に肯定的な回答が7割前後と高い割合を示しているが、「55歳以上」ではその割合は低くなっている。

同和問題学習に否定的な回答は、「54歳以下」では2割前後であるのに対し、「55歳以上」では3割前後となっている。

図 90: 職業別、同和問題学習についての考え方(%)



職業別にみると、「肯定的」な回答が比較的高いのは、「公務員・教員」83.0%、「学生」82.4%、「専門職・自由業」73.0%、「民間企業・団体(事務)」69.5%となっている。

逆に、「否定的」な回答が比較的高い職業は、「商工業・サービス業」35.8%、「その他」34.0%、「民間企業・団体(事務以外)」29.4%、「無職」28.4%となっている。